

第一期中期目標期間における業務実績評価にかかる 論点整理表（案）

資料4-2

I 大学の教育研究等の向上に関する項目（第1 教育に関する項目）

◎大項目総括

各委員の評価(S・A・B・C・Dの5段階)を記入してください。

法人の自己評価	評価結果	年度評価結果					
		2 1	2 2	2 3	2 4	2 5	2 6
A		おおむね計画どおり実施	おおむね計画どおり実施	おおむね計画どおり実施	おおむね計画どおり実施	おおむね計画どおり実施	

法人による総括

①自己評価の根拠

学部においては、平成24年度から新カリキュラムを運用し、看護職者としてのアイデンティティの醸成をねらいとしたキャリアデザインや大学教育を学ぶ上で基礎的な能力の育成として日本語トレーニングを開始した。また、「学生による授業評価」や「教員相互による授業点検評価」、FD活動を継続的に実施し、教育の質向上を図った。学部入試については、県内の優秀な学生を確保するため推薦入試制度の見直しや高等学校との連携を強化し受験者数の増加につなげることができた。

大学院においては、平成25年度から新カリキュラムを運用し、高度な看護実践能力を有する看護専門職者の育成を行った。また、医療機関や卒業生などにも大学院進学を働きかけるとともに、入学選抜方法の見直しなど入学者の確保に努めた。

【定員に対する入学者の割合】

H21:40.0%、H22:40.0%、H23:46.7%、H24:26.7%、H25:13.3%、H26:53.3%

なお、自己評価については、中期計画に掲げた項目を全て達成できたことから、「A」とした。

②重点的な取組及び特筆すべき取組

・質の高い看護専門職を育成するため、平成24年度から新カリキュラムを運用するとともに、新カリキュラムの有効性についても、継続的に点検・検証を行った。

・大学教育改革として平成22年度文部科学省「大学生の就業力支援事業」に採択された「休退学・早期離職防止のキャリア形成モデル」により、学部学生には平成24年度からの新カリキュラムに「キャリアデザイン」を科目として新設した。旧カリキュラム生には「看護職キャリアデザインセミナー」を実施し、また看護大学への入学を志す高校生には「看護職キャリアデザイン講座」を開講した。さらに、看護職者を目指す高校生への支援強化のために平成26年度に公立大学としては唯一採択された文部科学省「大学教育再生加速プログラム」のテーマⅢ（高大接続）につなげ、本学の教育改革に努めた。

・本学の臨地実習の指導等に関わり一定の基準を満たす看護師等へ臨床教授等の資格付与や、県内7医療機関との連携協力協定の締結など、臨床教育の指導体制の充実を図り、学生の実習能力の質向上を図った。

・国家試験対策を含めた学習支援体制を強化し、平成26年度の看護師、保健師、助産師の国家試験合格率が100%となった。

・レファレンスサービスの充実など図書館業務の専門性を高めるとともに、電子ジャーナルやオンラインデータベースの活用、情報関連システムの整備など学習環境の充実に努めた。また、ホームページなどを活用し大学の学術情報や受験生向け情報を積極的に発信した。

・少子化により18歳人口が減少する中で、より優秀な学生を確保するため、ワーキンググループを設置して、広報活動や高校訪問などに取り組むとともに、文部科学省の補助事業を活用して高大接続事業に注力した。なお、法人化後志願者数も増加し、一般入試の平均志願倍率が8.7倍（法人化前3年間平均6.23倍）となった。

認証評価機関（公財 大学基準協会）による評価

評価の結果、貴大学は本協会（大学基準協会）の大学基準に適合していると認定する。

一 長所として特記すべき事項

1 教育内容・方法・成果

(1)教育方法

1)授業改善に向けた取り組みとして、授業評価アンケートに加え、専任教員全員を対象にした「教員相互による授業点検評価」を実施し、20項目の独自の点検評価基準に基づいた評価を行い、評価者と被評価者が一堂に会して開催される「点検評価会議」にて報告している。さらに評価者は「点検評価シート」を、被評価者は評価結果を受けて「再点検用紙を「FD委員会」へ提出することで、組織的な授業改善に繋げていることは、評価できる。

二 努力課題

1 教育内容・方法・成果

(1)教育方法

1)看護学部および看護学研究科のシラバスは、統一した書式が用いられているが、記載内容に教員間で精粗が見られる。特に看護学研究科では、授業計画が明確に示されていない科目が見受けられるので、学生の自己学習に活用できるよう、改善が望まれる。

(2)成果

1)学位論文審査において、論文指導担当教員が論文審査の主査を務めていることは、審査体制の客観性および公平性を担保するうえで不十分であるので、改善が望まれる。

2 学生の受け入れ

1)看護学研究科では、収容定員に対する在籍学生数比率が0.43と低いので、改善が望まれる。

3 教育研究等環境

1)図書館において、専門的な知識を有する専任職員が配置されていないので、改善が望まれる。

◎大項目の主な内容

(1) 注目される主な取組

★(H25実績評価における特筆項目)は、別途【参考資料】有り
※【参考資料】に中間総括以降(H25、26)の取組を記載

原則、太囲み線内の、黄色着色部分(中間総括以降の視点)に、各委員のコメントを簡潔にご記入ください。
黄色着色部分以外(中間総括の視点)については、中間総括と異なった意見や、追記したいこと等あればご記入ください。

評価の視点	〈視点の内訳〉 ●中間総括(H21～H24) ◎H25年度評価結果 ◇H26年度実績報告	番号	関連する中期目標・中期計画	関連する中期計画の実施状況		
				中期計画の実施状況(H21～H26)	達成年度	期間評価にかかる評価委員コメント
① 質の高い看護職者の育成	<p>●看護専門職者と総合的看護実践能力を育成するための新カリキュラムを作成し、平成24年4月より運用を開始した。また、新カリキュラムの有効性についても、継続的に点検・検証を実施している。 <21101関連></p> <p>●授業改革のための組織的取組として、FD活動を総合的・多面的に推進し、教育の質を向上させる取組を展開している。「学生による授業評価」に加えて、全国に先駆けて実施している「教員相互による授業評価」などの授業点検評価により、授業形態、学習指導法等を改善し、質の高い看護職者の育成に貢献している。 <21102、21305、21306関連></p> <p>●平成23年度に「認定看護師教育課程『感染管理』」を開設し、また、成人看護学領域の専門看護師コース開設に向けて取り組むなど、総合的能力を有する看護専門職者を育成している。 <21108関連></p>	21101	<p>＜幅広い教養と豊かな人間性の育成＞</p> <p>すべての人に対する思いやりと人間愛を育むため、人間性を培う教養・基礎教育と看護の専門性を培う専門支持及び専門教育を充実させることにより、高い倫理観を基盤とした幅広い教養と豊かな人間性を育成する。</p>	幅広い教養と豊かな人間性の育成のため、カリキュラム内容の点検・評価を毎年度実施した。また、保健師助産師看護師学校養成所指定規則の改正に伴い、平成24年度から新カリキュラムの運用を開始し、それに合わせて看護専門職としてのアイデンティティの醸成をねらいとしたキャリアデザインや大学教育を学ぶ上で基礎的な能力の育成として日本語トレーニングを開講した。	21	<p>□注目される主な取組</p> <p>□改善等を期待する点</p> <p>□その他</p>
		21102	<p>＜看護専門職者としての基礎的な能力の育成＞</p> <p>自律的・創造的に看護を実践するため、主体的に学習する姿勢、課題発見や問題解決の能力、コミュニケーション能力を含めた理解力、思考力、表現力等の育成を図る。</p>	「教員相互による授業評価」及び「学生による授業評価」を参考に授業内容の改善に努めた。また平成24年度から新カリキュラムとして「日本語トレーニング」「キャリアデザイン」を開講し、看護者専門職者としての基礎的な能力の育成につなげることができた。	21	
		21108	<p>＜総合的調整能力を有する看護専門職者の育成＞</p> <p>多様化・複雑化・高度化する看護ニーズに的確に対応していくため、看護の実践現場における総合的な調整能力を有する看護専門職者を育成する。</p>	看護の専門職者を育成するため、県内のニーズ調査を踏まえ、平成23年度から認定看護師教育課程『感染管理』を開講し、3年間で90名の修了生を送り出した。	23	
		21305	<p>＜FD活動の組織的推進＞</p> <p>教材や学習指導方法等に関する研究を推進し、教育の質を向上させるため、組織的な取組みを進める。</p>	「研究・教育コロキウム」を継続的に開催し、各教員が取り組んでいる研究や教育に関連するテーマで発表・意見交換がなされた。また、FD研修会における議論や各種アンケートから見出された教育改善に関わる意見については、教授会において教職員に報告し、教育改善への取り組みに活用するよう求めた。	21	

		21306	<教員相互の授業評価の実施> 授業を担当する教員は教員間での授業評価を受け、授業形態、学習指導法等のさらなる改善を図る。	「教員相互による授業評価」を継続的に実施し、評価者、被評価者両者による評価会議を実施するとともに、「学生による授業評価」を行い評価結果を各教員が授業内容にフィードバックして改善を図った。	21	
② へボランティアの育成 の育成 地域に貢献する能力	●授業以外の学習機会の提供として、ボランティア活動による課外学習の機会を設け、参加学生数の増加など成果を上げている。中でも、東日本大震災や台風被災地におけるボランティア活動は特に注目される。 ●学生ボランティア支援を充実させ、かつ迅速に意思決定できるように、平成24年度に学長直轄の学生ボランティア支援委員会の運営を開始した。また、「ボランティア活動取扱規程」を制定するなど、活動支援体制を整えている。 <21104、21212、21421関連>	21104	<地域に貢献する能力の育成> 地域の生活文化・歴史等を理解して地域特性に応じた看護実践を展開し、地域の課題解決や保健・医療・福祉の向上に貢献する能力の育成を図る。	学生の地域貢献を支援するため、平成23年度に「ボランティア活動取扱規程」を制定し、交通費助成や本学施設等の無償貸与、ボランティア活動に関する研修会を実施するとともに、ボランティア活動登録システムを稼働させ、ボランティア支援体制を整えた。	23	<input type="checkbox"/> 注目される主な取組 <input type="checkbox"/> 改善等を期待する点
		21212 ★	<授業以外での学習機会の提供> 学生が地域社会への興味や理解を深めることができるよう、公開講座の実施や地域交流センターの活動並びにボランティア活動等に学生が参加する機会を設ける。	本学が主催するシンポジウムや県民向けの公開講座などに多くの学生が参加した。また、学生がボランティア活動に参加しやすいよう学内に学生ボランティア支援委員会を設置して、ボランティア情報の一元管理や学生が希望する活動内容や時期を登録する制度を整備し積極的に支援した。	21	<input type="checkbox"/> その他
		21421	<課外活動支援の充実> ボランティア活動やサークル、大学祭等、学生による自主的活動を積極的に支援するための体制を整備する。	サークル活動団体にアンケートを実施し、要望等を確認するとともに、サークル助成金の適正な管理のためサークル代表者へ指導を行った。また、大学主催の行事等への参加に応じ追加で助成金を支給しサークル活動の活性化を促した。	22	
③ へ国際化に対応した教育の充実	●国際化に対応する人材の育成に向け、「国際看護実習Ⅰ・Ⅱ」を実施し、UCLA 教員招聘事業やタイ国マヒドン大学及びUCLAでの実習を行うなど、国際的な視野や思考、外国語の運用能力などを身につけるための教育を充実させている。 <21210関連> 【改善等を期待する点】 今後、履修者数の更なる増加について検討していただきたい。	21210 ★	<国際化に対応した教育の充実> 看護と社会の国際化に対応する人材の育成に向け、国際的な視野や思考、外国語の運用能力などを身につけるための教育を充実させる。	国際化に対応した看護職者を育成するため、マヒドン大学(タイ国)で、国際看護実習Ⅰをカリフォルニア州立大学ロサンゼルス校(米国)で国際看護実習Ⅱを開講するとともに、第2外国語や国際看護活動論、国際保健の履修により、海外の状況や文化を身に付けられるようにした。	21	<input type="checkbox"/> 注目される主な取組 <input type="checkbox"/> 改善等を期待する点 <input type="checkbox"/> その他

<p>④ へ 教員の確保と適正な配置 へ</p>	<p>●看護系教員の絶対数の不足という全国的状況の中で、特任教員を積極的に採用するなど、継続的に教員数の確保に努めている。その結果、平成24年度においては13名と例年よりも多くの教員採用に至った。 <21304関連></p> <p>【改善等を期待する点】 今後も引き続き、特任以外の教員を積極的に確保する努力が求められる。</p>	<p>21304</p>	<p>＜教員の確保と適正な配置＞ 大学設置基準等に基づく学部及び研究科の教育の実施に必要な教員を確保し、その適正な配置と教員組織の充実を図る。</p>	<p>看護系大学・学部が急増する中で、特に看護学教員の確保が困難な状況にあるが、公募による教員の確保に努めた。また、「高大連携特任教授」、「地域連携特任教授」等の任用制度を創設し、教育の質の確保に向けて取り組んだ。</p>	<p>21</p> <p><input type="checkbox"/>注目される主な取組</p> <p><input type="checkbox"/>改善等を期待する点</p> <p><input type="checkbox"/>その他</p>
<p>⑤ へ 三重県立看護大学附属看護博物館の設置 へ</p>	<p>●平成24年度に、開学15周年を記念し、三重県の看護の歴史に関する文献等を展示する国公立大学では初となる「附属看護博物館」を設置し、学習環境の向上に努めている。 <21308関連></p> <p>【改善等を期待する点】 来館者を増やしていくためにも、より多くの資料を展示できるよう創意工夫することが期待される。</p>	<p>21308</p>	<p>＜教育に必要な施設、設備等の整備＞ 教育学習環境の維持・向上のため、必要な施設・設備・備品・図書を整備を計画的に行うとともに整備状況を点検評価し、改善を図る。</p>	<p>教育に必要な施設・設備等については、常に点検して最適な状態を維持するとともに、教職員の意見や学生アンケートなどを参考に施設・設備の改修を行い教育学習環境の向上を図った。また、附属図書館の蔵書についても教職員や学生の要望に基づき、必要な図書の購入を行った。さらに、本学開学15周年記念の一環として、国公立大学では初めてとなる「三重県立看護大学附属看護博物館」を開設し、看護の歴史に関する文献や物品等を展示した。</p>	<p>21</p> <p><input type="checkbox"/>注目される主な取組</p> <p><input type="checkbox"/>改善等を期待する点</p> <p><input type="checkbox"/>その他</p>

⑥ 情報システム関係の充実 ▽	<p>●メディアコミュニケーションセンターは、図書館の業務を外部委託することにより、電子ジャーナルやオンラインデータベースの利用を可能にするなど、大学の学術情報の発信並びに学習場所としての機能を充実させている。 <21309関連></p> <p>●ホームページやモバイル版ホームページの一元管理体制を確立し、受験生向け情報発信の充実を図っている。 <21405関連></p>	21309	<p><メディアコミュニケーションセンターの設置による情報システム環境の充実> 附属図書館の機能とIT活用による教育支援機能を有するメディアコミュニケーションを設置することにより、オンラインデータベースや電子ジャーナル等をはじめとした学術情報の効率的な利用を図り、大学の学術情報の発信並びに学習場所としての機能を充実させる。</p>	<p>電子ジャーナルを導入し、データベースの使い方や電子ジャーナルへのリンクなど研修会を実施し利用の促進を図った。データベースの稼働率は同規模の他大学と比較しても高く、ITを活用した教育環境の整備に効果があった。</p>	21	<p>□注目される主な取組</p> <p>□改善等を期待する点</p>
	21405	<p><情報システム（IT）の活用> 携帯電話やパソコンの大学ホームページから休講や実習等の教務情報や、奨学金、留学、就職などに関する情報等が入手できるシステムを拡充するなど、ITを活用した学生への情報提供の充実を図る。</p>	<p>情報センターでホームページの管理を一元化し、教育情報の充実に努めた。また平成23年度に構築したモバイル版ホームページを活用して、メールマガジン「みかんだい通信」を月2回発行し、情報発信を強化した。さらに、平成25年度にはホームページの全面改訂にあわせ、スマートフォンでの閲覧も可能とした。</p>	21	□その他	
⑦ 就職支援体制	<p>●各種相談にきめ細やかに対応するために職種別の就職担当を設置したり、就職相談会等を実施するなど、就職支援体制を強化している。その結果、平成24年度の県内就職率は60.7%と目標を上回り、過去最高となった。</p> <p>【改善等を期待する点】 一方で、学生アンケートにおいて進学・就職に関する情報が少ないという意見も一部に見受けられるため、現状を分析した上で、改善に繋がるような対策を講じる必要がある。</p> <p>●卒業生のUターン就職などを支援するため、卒業生に対し、様々な情報提供を行なっている。 <21425、21426、21427、21431関連></p>	21425	<p><就職支援体制の充実> 就職決定率100%を維持するため、就職支援活動を行う相談教員を明確にするなど就職支援体制を強化する。</p>	<p>職種別就職担当を設置し、就職を希望する学生の支援を行い、毎年、就職内定率100%を維持することができた。また、県内就職率については、県内医療機関の情報を積極的に提供し、平成22年度を除き目標（50%以上）を達成した。</p>	21	□注目される主な取組
		21426	<p><看護専門職者としての就職するための指導・支援の充実> 看護専門職者としてのアイデンティティを明確にし、看護専門職者としての就職するための動機付けとしてのガイダンスを早朝から行う。</p>	<p>平成24年度の新カリキュラムから「キャリアデザイン」を科目として設置し、看護専門職者としてのアイデンティティの醸成に努めた。なお、新カリキュラムが適応されない学生には、研修会として「看護職キャリアデザインセミナー」を実施した。</p>	24	□改善等を期待する点

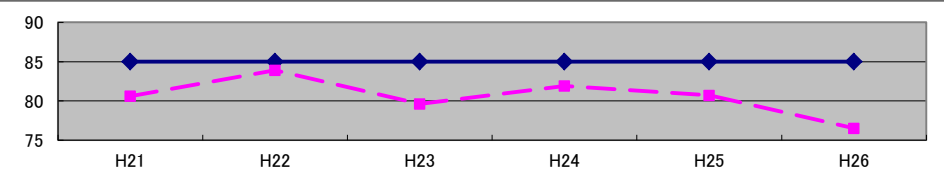
<p>の 充 実 ▽</p>		21427	<p><就職ガイダンスの実施> 自己分析、就職先情報提供、試験や面接対策などのための就職ガイダンスを実施する。</p>	<p>県内の医療機関が参加する「就職説明会」や卒業後2～3年目の看護師等を招聘し就職後の状況や体験談を語ってもらう「ようこそ先輩」を毎年度実施し、多くの学生の参加を得た。また、参加した学生のほとんどが参加して良かったと評価しており、効果が高かった。</p>	21	□その他
		21431	<p><県内就職率の向上に向けての就職支援の実施> 県内の就職率を向上させるため、県内の医療機関等を招いて就職ガイダンスや意見交換会を実施するほか、県内に就職した卒業生を育成していく体制づくりなどを通じて、県内施設の就職先としての魅力度向上に繋がる取組を就職支援の一環として実施する。</p>	<p>県内医療機関を招いた就職説明会や本学卒業生等を招いたようこそ先輩を実施し、県内就職に向けた情報発信に取り組んだ。また、本学卒業生には永久的に有効な電子メールアドレスを付与して、本学からの情報発信を積極的に行った。</p>	21	
<p>⑧ へ 卒 後 教 育 支 援 体 制 の 充 実 ▽</p>	<p>●学生委員会と地域交流センターが、卒業生からの相談内容を共有し、それぞれの特色を発揮しながら、協同して支援策を講じるなど、同窓会と卒業生への支援体制を確かなものとしている。 <21432関連></p> <p>●卒業生のスキルアップ支援のための事業を積極的に展開し、看護の質向上に寄与している。 <21434関連></p>	21432	<p><卒業生に対する支援体制の確立> 卒業生の卒後の進路状況とニーズを把握し、それらに見合った卒後教育や離職防止のための支援の体制を構築する。</p>	<p>卒業生に対しては、地域交流センターの卒業生支援事業への参加者アンケートの結果をもとに、心のサポートや看護実践能力の向上やスキルアップ等の支援事業を実施した。また、同窓会との懇談会を通じ連携を強化した。</p>	21	□注目される主な取組 □改善等を期待する点
		21434	<p><卒業生のスキルアップ支援の充実> 卒業生を対象にした授業の開講や定期的な研修会の開催、看護研究の指導などにより卒業生のスキルアップを支援する。また、これらの支援を通じた情報収集と課題の把握により、卒業生とともに看護の質の向上を目指す。</p>	<p>卒業生に対するスキルアップ支援については、認知症ケア看護師養成研修をはじめ、複数の地域交流センター事業に取り組み、卒業生を含む多くの参加者を得た。また、卒業生が多く就業している病院と連携協力協定を締結し、関係を強化するとともに、看護部長等との意見交換を通じて情報収集に努めた。</p>	21	□その他

<p>⑨ へ地域を理解する力を養う教育の充実</p>	<p>◎学生が地域の特性や実情を理解することは重要であり、そのために、大学が実施した積極的かつ創意あるさまざまな取組を高く評価する。今後も積極的に進められたい。 <21211関連></p>	<p>21211 ★</p>	<p><地域を理解する力を養う教育の充実> 地域の特性や状況を学び、看護実践に展開できる能力を身につけさせるため、「ふれあい実習」や「地域看護学実習」等の科目の教育を地域との連携のもとに充実させる。</p>	<p>ふれあい実習については、平成24年度カリキュラムから廃止としたが、地域看護学が公衆衛生看護学と名称変更した科目において、地域の特性が学べるような教育内容を組み込み、実際に地域住民との接触やコミュニケーションが実現できるよう実施した。</p>	<p>21</p>	<p><input type="checkbox"/>注目される主な取組</p> <p><input type="checkbox"/>改善等を期待する点</p> <p><input type="checkbox"/>その他</p>
<p>⑩ へ高大接続の推進</p>	<p>◇評価未了(H26実績)</p>	<p>21202</p>	<p><県内高校訪問の充実> 県内の高等学校を訪問し、アドミッションポリシーの周知を図るとともに、選抜方法等についての高等学校からの意見を聞き取る等、県内高校との連携を推進する。</p>	<p>高校訪問用のマニュアルや視聴覚教材を整え、説明内容のバラツキが生じないように取り組むとともに、積極的に高等学校を訪問した。さらに、県内高校生を対象に看護への理解を深め、自らの意志で看護大学に進学してもらえるよう看護職キャリアデザイン講座に取り組んだ。</p>	<p>21</p>	<p><input type="checkbox"/>注目される主な取組</p>
		<p>21209 ★</p>	<p><大学での学習に必要な基礎的能力を養う教育の充実> 大学での学習に必要な科目の知識や理解、コミュニケーション力などの基礎的な能力を身につけるための教育を充実させる。</p>	<p>大学で学ぶための基礎的な能力を育成するため、平成24年度新カリキュラムから「日本語トレーニング」を設置するとともに、教養・基礎科目群の中で、高校で選択していない科目についても学生が不利益を蒙らないような科目「基礎科学」、「基礎生物」を設置した。</p>	<p>24</p>	<p><input type="checkbox"/>改善等を期待する点</p>
		<p>21420</p>	<p><退学・休学等への対策の充実> 学生が充実した学生生活を全うできるよう、退学、除籍、休学の現状を分析し、その結果をもとに、学生の支援体制や内容、教育環境等の見直しを行い、退学等の減少を図る。</p>	<p>退学・休学の原因のひとつに看護専門職についての理解が不十分のまま入学し、学習へのモチベーションを保てずに退学・休学に至るケースがあることから、学部学生には「キャリアデザイン」あるいは「看護職キャリアデザインセミナー」を、高校生には「看護職キャリアデザイン講座」を実施した。これらの科目や研修は、平成22年度文部科学省「大学生の就業力支援事業」に採択された「休退学・早期離職防止のキャリア形成モデル」での取り組みとしてスタートし、さらに看護職者を目指す高校生への支援強化のために平成26年度に公立大学としては唯一採択された文部科学省「大学教育再生加速プログラム」のテーマⅢ（高大接続）につながられた。</p>	<p>21</p>	<p><input type="checkbox"/>その他</p>

⑪ へ公正な成績評価の実施 へ	◇評価未了(H26実績)	21216	<成績評価方法の明解化と周知> 各科目の学習目標に基づいた成績評価基準を学生に対して明確に示し、シラバスやホームページ等で公表する。	成績評価基準については、学生便覧に加え平成22年度から成績評価の対象とする定期試験やレポートの成績配分をシラバスに記載するとともに、「三重県立看護大学試験及び成績評価実施要項」を改正し、これに基づき適切な運用に努めた。	21	<input type="checkbox"/> 注目される主な取組 <input type="checkbox"/> 改善等を期待する点 <input type="checkbox"/> その他
		21217	<単位認定基準の明確化と厳正な単位認定の実施> 単位取得認定の基準を明確にし、周知するとともに、認定を厳正に行い、その経緯を公開する。また、GPA (Grade Point Average) 制度などの、より適切な評価方法を導入する。	成績や試験結果に対し、学生自身の権利が守れるよう平成24年に「学生の成績確認及び異議申立てに関する要項」を制定し、より一層厳正な単位認定につなげた。また、平成26年度に「三重県立看護大学GPA等の算出等に関する要項」を制定し、平成27年度から施行した。	24	

(2) 数値目標に関連する主な取組

評価の視点	中間総括 (H21～H24) ※H26.1月報告	関連する数値目標と取組結果 (H21～H26)	期間評価にかかる評価委員コメント														
<p>⑫ ↑ 県内就職率 ↓</p>	<p>【進捗が顕著な項目】</p> <p>●就職者数に対する県内への看護職就職者数の割合であるが、平成22年度を除いて全て目標の50%を上回っており、平成24年度においては過去最高の60.7%となった。これは、平成22年度が48.0%と目標を下回ったことから、県内医療機関を大学に招いて実施した就職説明会や、県内医療機関等の奨学制度の学生への周知などの支援を通じて、県内就職率の向上につながる様々な取り組みが行われた結果である。</p>	<p><数値目標> 県内就職率（県内への看護職者数／就職者数）を50%以上とする。</p> <p><取組結果> 平成22年度を除き目標値の50%を上回り、6カ年(H21～26)の平均も54.0%と目標値を上回った。</p> <p>(実線:目標値、破線:実績値)</p> <table border="1"> <caption>県内就職率 (実績値)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>就職率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H21</td> <td>59.0</td> </tr> <tr> <td>H22</td> <td>48.0</td> </tr> <tr> <td>H23</td> <td>52.0</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>60.7</td> </tr> <tr> <td>H25</td> <td>54.0</td> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>52.0</td> </tr> </tbody> </table>	年度	就職率 (%)	H21	59.0	H22	48.0	H23	52.0	H24	60.7	H25	54.0	H26	52.0	<p><input type="checkbox"/>注目される主な取組</p> <p><input type="checkbox"/>改善等を期待する点</p> <p><input type="checkbox"/>その他</p>
年度	就職率 (%)																
H21	59.0																
H22	48.0																
H23	52.0																
H24	60.7																
H25	54.0																
H26	52.0																
<p>⑬ ↑ 修士学位取得者数 ↓</p>	<p>【進捗が遅れている項目】</p> <p>●研究科での学位取得者数は4年連続で目標の8名を下回っている。これは研究科の入学者を確保すること自体が困難であるところに根本的な問題があるため、この側面での更なる工夫と努力が必要である。</p>	<p><数値目標> 修士学位取得者数（研究科での学位取得者数）を8人以上とする。</p> <p><取組結果> 6年連続目標の8人を達成することができなかった。</p> <p>(実線:目標値、破線:実績値)</p> <table border="1"> <caption>修士学位取得者数 (実績値)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>取得者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H21</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>H22</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>H23</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>H25</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table>	年度	取得者数	H21	4	H22	7	H23	4	H24	3	H25	3	H26	4	<p><input type="checkbox"/>注目される主な取組</p> <p><input type="checkbox"/>改善等を期待する点</p> <p><input type="checkbox"/>その他</p>
年度	取得者数																
H21	4																
H22	7																
H23	4																
H24	3																
H25	3																
H26	4																

(大学の支援に満足している率) ⑭へ学生アンケートにおける学生満足度	【進捗が遅れている項目】 ●学生アンケート調査による結果であるが、「大学の支援に満足している率」は、4年連続目標の85.0%を達成することができなかった。チューター制度、オフィスアワー制度、健康相談制度、事務局対応、経済支援、進路・国家試験の6項目の支援制度全体に対する満足度で計っているが、学生の一部からは、進学・就職に関する情報が少ないという意見も見受けられるので、改善につながるような対策を講じる必要がある。	<数値目標> 学生アンケートにおける学生満足度（大学の支援に対して満足している率）を85%以上とする。 <取組結果> 6年連続目標の85.0%を達成することができなかった。 (実線:目標値、破線:実績値)  <table border="1" data-bbox="667 354 1608 539"> <caption>学生満足度推移表</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値 (%)</th> <th>実績値 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H21</td><td>85</td><td>80</td></tr> <tr><td>H22</td><td>85</td><td>84</td></tr> <tr><td>H23</td><td>85</td><td>80</td></tr> <tr><td>H24</td><td>85</td><td>82</td></tr> <tr><td>H25</td><td>85</td><td>81</td></tr> <tr><td>H26</td><td>85</td><td>77</td></tr> </tbody> </table>	年度	目標値 (%)	実績値 (%)	H21	85	80	H22	85	84	H23	85	80	H24	85	82	H25	85	81	H26	85	77	<input type="checkbox"/> 注目される主な取組 <input type="checkbox"/> 改善等を期待する点 <input type="checkbox"/> その他																				
	年度	目標値 (%)	実績値 (%)																																									
H21	85	80																																										
H22	85	84																																										
H23	85	80																																										
H24	85	82																																										
H25	85	81																																										
H26	85	77																																										
(3) その他の取組 ⑮へ入試の志願者数の増加	【進捗が遅れている項目】 ●少子化により18歳人口が減少する一方で、看護系大学が急増するなか、学生確保を図るために、大学の知名度向上や、受験生確保に重点的に取り組んできた（学生募集のために学内にワーキンググループを設置、高校訪問、大学紹介DVDの作成などの広報活動の強化、高校側の意見聴取など）。その結果、法人化前3年間（H19～H21年度入試）の一般入試の平均志願倍率が6.23倍なのに対して、法人化後4年間（H22～H25年度入試）では9.7倍となり、志願者数が増加した。	取組の実施状況（H21～H26） 法人化前3年間（H19～H21年度入試）の一般入試の平均志願倍率が6.23倍なのに対して、法人化後6年間（H22～H27年度入試）では8.75倍となった。 (表1)入試(定員65人)における平均志願倍率の比較 <table border="1" data-bbox="667 1024 1281 1157"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成19～21年度</th> <th>平成22～27年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平均志願者数(人)</td> <td>405</td> <td>569</td> </tr> <tr> <td>平均志願倍率</td> <td>6.23</td> <td>8.75</td> </tr> </tbody> </table> (表2)志願者数の推移 <table border="1" data-bbox="667 1268 1512 1417"> <thead> <tr> <th>試験区分【定員数】</th> <th>21年度入試(20年度実施)</th> <th>22年度入試(21年度実施)</th> <th>23年度入試(22年度実施)</th> <th>24年度入試(23年度実施)</th> <th>25年度入試(24年度実施)</th> <th>26年度入試(25年度実施)</th> <th>27年度入試(26年度実施)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>特別入試【35人】</td> <td>55人</td> <td>101人</td> <td>87人</td> <td>72人</td> <td>67人</td> <td>71人</td> <td>114人</td> </tr> <tr> <td>一般入試【65人】(志願倍率)</td> <td>229人(3.5)</td> <td>461人(7.1)</td> <td>997人(15.3)</td> <td>475人(7.3)</td> <td>580人(8.9)</td> <td>370人(5.7)</td> <td>528人(8.1)</td> </tr> <tr> <td>合計【100人】</td> <td>284人</td> <td>562人</td> <td>1,084人</td> <td>547人</td> <td>647人</td> <td>441人</td> <td>642人</td> </tr> </tbody> </table>	区分	平成19～21年度	平成22～27年度	平均志願者数(人)	405	569	平均志願倍率	6.23	8.75	試験区分【定員数】	21年度入試(20年度実施)	22年度入試(21年度実施)	23年度入試(22年度実施)	24年度入試(23年度実施)	25年度入試(24年度実施)	26年度入試(25年度実施)	27年度入試(26年度実施)	特別入試【35人】	55人	101人	87人	72人	67人	71人	114人	一般入試【65人】(志願倍率)	229人(3.5)	461人(7.1)	997人(15.3)	475人(7.3)	580人(8.9)	370人(5.7)	528人(8.1)	合計【100人】	284人	562人	1,084人	547人	647人	441人	642人	<input type="checkbox"/> 注目される主な取組 <input type="checkbox"/> 改善等を期待する点 <input type="checkbox"/> その他
	区分	平成19～21年度	平成22～27年度																																									
平均志願者数(人)	405	569																																										
平均志願倍率	6.23	8.75																																										
試験区分【定員数】	21年度入試(20年度実施)	22年度入試(21年度実施)	23年度入試(22年度実施)	24年度入試(23年度実施)	25年度入試(24年度実施)	26年度入試(25年度実施)	27年度入試(26年度実施)																																					
特別入試【35人】	55人	101人	87人	72人	67人	71人	114人																																					
一般入試【65人】(志願倍率)	229人(3.5)	461人(7.1)	997人(15.3)	475人(7.3)	580人(8.9)	370人(5.7)	528人(8.1)																																					
合計【100人】	284人	562人	1,084人	547人	647人	441人	642人																																					

I 大学の教育研究等の向上に関する項目 (第2 研究に関する項目)

◎大項目総括

法人の自己評価	評価結果	年度評価結果					
		2 1	2 2	2 3	2 4	2 5	2 6
A		おおむね計画 どおり実施	おおむね計画 どおり実施	おおむね計画 どおり実施	おおむね計画 どおり実施	おおむね計画 どおり実施	

各委員の評価(S・A・B・C・Dの5段階)を記入してください。

法人による総括

①自己評価の根拠

地域の保健・医療・福祉の向上に資するため、地域の特性やニーズに応じた研究を実施するとともに、学長特別研究費などを活用して各教員の独自の・先駆的な研究を支援した。また、それらの研究成果については、ホームページへの掲載や公開講座等への講師派遣などを通じ地域や県民に還元した。さらに、全教員が外部研究資金の獲得をめざし、若手教員への支援などに取り組んだ。

なお、自己評価については、中期目標に掲げた事項を全て達成できたことから「A」とした。

②重点的な取組及び特筆すべき取組

・外部研究資金の獲得をめざし応募した結果、外部研究資金申請率が平成24年度、25年度に100%を達成した。また、獲得件数についても年々増加し、平成26年度は18件と過去最高となった。

・教育活動評価・支援制度の一環として、サバティカル・リープ制度を運用し、平成25年度に教員1名を海外研修に派遣した。

認証評価機関（公財 大学基準協会）による評価

評価の結果、貴大学は本協会（大学基準協会）の大学基準に適合していると認定する。

二 努力課題

3 教育研究等環境

1) 個人研究費に関する支給規程が定められていないので、策定するよう改善が望まれる。

◎大項目の主な内容

(1) 注目される主な取組

☆(H25実績評価における特筆項目)は、別途【参考資料】有り
※【参考資料】に中間総括以降(H25、26)の取組を記載

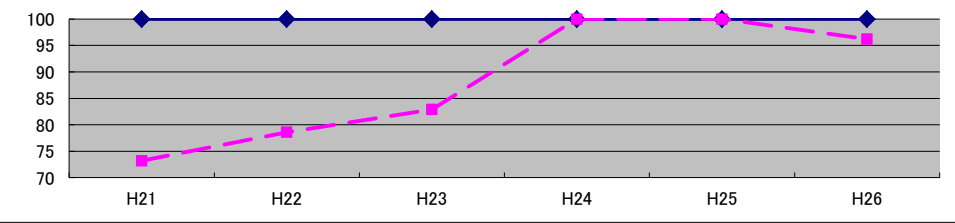
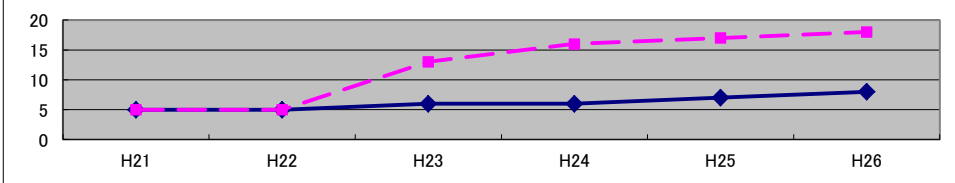
原則、太囲み線内の、黄色着色部分(中間総括以降の視点)に、各委員のコメントを簡潔にご記入ください。
黄色着色部分以外(中間総括の視点)については、中間総括と異なった意見や、追記したいこと等あればご記

評価の視点	〈視点の内訳〉 ●中間総括(H21~H24) ◎H25年度評価結果 ◇H26年度実績報告	番号	関連する中期目標・中期計画	関連する中期計画の実施状況		期間評価にかかる評価委員コメント
				中期計画の実施状況(H21~H26)	達成年度	
① ↑学問の発展に寄与する研究の ↓	<p>●教員が行う研究について、教員活動評価・支援制度の中で、学長による個人面談での助言や実績に対する評価が行われており、教員の研究活動推進に貢献している。</p> <p>●レフェリー付学術雑誌への掲載件数や書評を受けた件数等の把握など、客観的データを整理し、研究水準の自己検証に努めている。 <22102関連></p>	22102 ☆	<p>＜学問の発展に寄与する研究の推進＞ 看護学及び各教員の専門領域の学問体系の構築や学術の発展に寄与する独創的・先駆的な研究を実施する。</p>	<p>教員活動評価・支援制度を通じて、各教員の研究を正しく評価するとともに、学長特別研究費を活用して、独創的、先駆的な研究を支援した。</p>	21	<p><input type="checkbox"/>注目される主な取組</p> <p><input type="checkbox"/>改善等を期待する点</p> <p><input type="checkbox"/>その他</p>
② ↑研究活動のための研修にか	<p>●教員活動評価・支援制度の一環として、サバティカル制度を導入した。平成24年度には1名の教員を対象者として選出し、研究活動のための研修支援を充実させた。 <22201関連></p> <p>◎教員定数の確保が難しいという困難な環境のなかで、サバティカル・リープ制度が、着実に実施され、平成25年8月から1名の教員が7ヶ月間、海外に渡航して研究を推進したことを評価する。運用面での課題はあるが、後退することのないように、継続して着実に実施し、国際レベルの研究成果を持続的に挙げることを期待する。 <22201、33304関連></p>	22201 ☆	<p>＜研究活動のための研修支援＞ 研究活動を促進するための研修等の制度を導入する。</p>	<p>平成20年度に整備した研修制度の周知を図るとともに、教員が外部資金申請に際して求めがあった場合に書類作成等の支援を行う体制(科学研究費助成事業支援システム)を構築した。また、平成23年度に教員活動評価・支援制度による海外研修推進体制を確立し、第1回海外研修者を決定した。平成25年度には、この制度を利用して、1名の教員が海外研修を行った。</p>	21	<p><input type="checkbox"/>注目される主な取組</p> <p><input type="checkbox"/>改善等を期待する点</p> <p><input type="checkbox"/>その他</p>

<p>～ かる 支 援 と 制 度 運 用 ～</p>		<p>33304 ☆ ＜教員の研修制度の構築と運用＞ 教員の能力開発のため、長期研修などの制度構築及び運用を行う。</p>	<p>優秀な教員を継続的に育成していくために、教員活動評価・支援制度を運用し、その評価結果に基づきサバティカル・リープ制度の対象者に選出された教員を海外研修に派遣した。</p>	<p>23</p>	
<p>③ ～ 外 部 研 究 資 金 の 獲 得 ～</p>	<p>●外部研究資金の申請率100%を目指すために教員への働きかけを続け、平成24年度においては初めて目標を達成するなど、積極的な研究資金の獲得に努めている。 <22205関連></p>	<p>22205 ＜外部資金の積極的な獲得＞ 全ての教員が科学研究費補助金等の外部資金獲得に向けた申請を行うため、外部資金及び競争的資金の応募や申請に関する研修等を計画的に実施するとともに、「大学教育改革支援のためのプログラム」等の資金申請に係る学内体制を整備し、積極的な研究資金の獲得に努める。</p>	<p>外部資金の獲得を図るため、各教員が毎年1件は外部資金の公募に申請することを目標に、外部資金に関する情報を電子メールを利用して全教員に配信した。また、科学研究費助成事業申請支援システムを構築し、若手教員を主とした支援を行い、外部研究資金の獲得に努めた。</p>	<p>21</p>	<p><input type="checkbox"/>注目される主な取組</p> <p><input type="checkbox"/>改善等を期待する点</p> <p><input type="checkbox"/>その他</p>
<p>④ ～ 三 重 の 看 護 史 ～</p>	<p>●地域交流センター事業として、平成24年度に『三重の看護史』を編さん、発行した。これは附属看護博物館の創設とあわせ、三重県の看護事業及び日本の地域看護事業の将来の発展にとって大きな示唆を与えるものとなった。 <22206関連></p> <p>(※)「附属看護博物館」については(教育-⑤)にも記載</p>	<p>22206 ＜学内外との共同研究の推進＞ 学内共同研究や産官学連携研究等の学外との共同研究を強化・促進するため、研究活動のコーディネートや事務手続きを支援する体制を整備する。</p>	<p>教員個々の研究テーマやこれまでの代表的な研究業績を本学ホームページに掲載し、学内外への周知を図るとともに、平成26年度に受託研究規程を整備した。また、地域交流センターに専任職員を配置し、関係機関との調整や事務手続きなどのコーディネート機能を充実させた。</p>	<p>21</p>	<p><input type="checkbox"/>注目される主な取組</p> <p><input type="checkbox"/>改善等を期待する点</p> <p><input type="checkbox"/>その他</p>

<p>⑤へ地域の保健・医療・福祉の向上に寄与する研究の推進</p>	<p>●行政や企業等からの受託事業・研究等を実施し、地域の保健・医療・福祉の向上に寄与している。</p>	<p>22101 ★</p>	<p><地域の保健・医療・福祉の向上に寄与する研究の推進> 地域の保健・医療・福祉の向上に資するため、行政や関係機関との連携・協働を深め、地域の特性やニーズに応じた研究を実施する。</p>	<p>地域の保健・医療・福祉の向上に資するため、県からの受託事業に取り組むとともに、平成26年度に受託研究規程や職務発明規程を制定した。また、県内7病院と連携協力協定を締結して、共同研究などに向けて関係強化を図った。</p>	<p>21</p> <p><input type="checkbox"/>注目される主な取組</p> <p><input type="checkbox"/>改善等を期待する点</p> <p><input type="checkbox"/>その他</p>																														
<p>【参考】受託事業実施状況 (単位：件数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>受託事業・連携事業</td> <td>7</td> <td>6</td> <td>4</td> <td>8</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>共同研究</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>受託研究</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>9</td> <td>8</td> <td>6</td> <td>9</td> <td>32</td> </tr> </tbody> </table>						区分	H21	H22	H23	H24	計	受託事業・連携事業	7	6	4	8	25	共同研究	0	1	0	0	1	受託研究	2	1	2	1	6	計	9	8	6	9	32
区分	H21	H22	H23	H24	計																														
受託事業・連携事業	7	6	4	8	25																														
共同研究	0	1	0	0	1																														
受託研究	2	1	2	1	6																														
計	9	8	6	9	32																														
<p>⑥へ知的財産の創出、管理及び活用</p>	<p>◇評価未了(H26実績)</p>	<p>22204</p>	<p><知的財産の創出、取得、管理及び活用> 大学としての知的財産の内容・種類の把握並びに活用を図るために、管理・活用体制を整備し、知的財産に関する方針を提示するとともに、知的財産の創出・保護等に関する職員及び学生の意識の向上を図る。</p>	<p>大学の知的財産の創出、活用を図るため、教職員を対象に知的財産に関する研修会を開催するとともに、平成26年度には知的財産を大学として適正管理できるよう職務発明規程の整備を行った。</p>	<p>23</p> <p><input type="checkbox"/>注目される主な取組</p> <p><input type="checkbox"/>改善等を期待する点</p> <p><input type="checkbox"/>その他</p>																														

(2) 数値目標に関連する主な取組

評価の視点	中間総括 (H21～H24) ※H26.1月報告	関連する数値目標と取組結果 (H21～H26)	期間評価にかかる評価委員コメント																																										
<p>⑦ 外部資金申請率・獲得件数</p>	<p>【進捗が顕著な項目】</p> <p>●外部研究資金の申請率（全教員における比率）は法人化以降順調に推移し、24年度において初めて目標を達成した。また、外部研究資金獲得件数についても順調に推移し、24年度においては過去最高の16件となった。</p>	<p><数値目標> (1) 外部研究資金申請率（申請教員数／在職教員数）を100%とする。 (2) 外部研究資金獲得件数（科学研究費補助金等の外部研究資金の獲得件数）を対前年度比10%増加させる。（基準値：3.8件）</p> <p><取組結果> (1) 外部研究資金申請率について、平成24年度、25年度に100%を達成した。（表1） (2) 外部研究資金獲得件数について、年々増加するとともに6年連続で目標を達成し、平成26年度は18件と過去最高となった。（表2）</p> <p style="text-align: right;">(実線:目標値、破線:実績値)</p> <p>(表1) 外部研究資金申請率(%)</p>  <table border="1"> <caption>(表1) 外部研究資金申請率(%)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値 (%)</th> <th>実績値 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H21</td> <td>100</td> <td>73</td> </tr> <tr> <td>H22</td> <td>100</td> <td>78</td> </tr> <tr> <td>H23</td> <td>100</td> <td>82</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>100</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>H25</td> <td>100</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>100</td> <td>96</td> </tr> </tbody> </table> <p>(表2) 外部研究資金獲得件数(件)</p>  <table border="1"> <caption>(表2) 外部研究資金獲得件数(件)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値 (件)</th> <th>実績値 (件)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H21</td> <td>3.8</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>H22</td> <td>3.8</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>H23</td> <td>3.8</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>3.8</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>H25</td> <td>3.8</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>3.8</td> <td>18</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標値 (%)	実績値 (%)	H21	100	73	H22	100	78	H23	100	82	H24	100	100	H25	100	100	H26	100	96	年度	目標値 (件)	実績値 (件)	H21	3.8	5	H22	3.8	5	H23	3.8	13	H24	3.8	16	H25	3.8	17	H26	3.8	18	<p><input type="checkbox"/>注目される主な取組</p> <p><input type="checkbox"/>改善等を期待する点</p> <p><input type="checkbox"/>その他</p>
年度	目標値 (%)	実績値 (%)																																											
H21	100	73																																											
H22	100	78																																											
H23	100	82																																											
H24	100	100																																											
H25	100	100																																											
H26	100	96																																											
年度	目標値 (件)	実績値 (件)																																											
H21	3.8	5																																											
H22	3.8	5																																											
H23	3.8	13																																											
H24	3.8	16																																											
H25	3.8	17																																											
H26	3.8	18																																											

I 大学の教育研究等の向上に関する項目 (第3 地域貢献に関する項目)

◎大項目総括

各委員の評価(S・A・B・C・Dの5段階)を記入してください。

法人の自己評価	評価結果	年度評価結果					
		2 1	2 2	2 3	2 4	2 5	2 6
S		B	A	A	A	A	

法人による総括

①自己評価の根拠

地域貢献については、地域交流センターを設置し、受託事業や審議会等への参画、看護職者の看護研究・看護実践能力向上のための研修の実施、公開講座等による県民の健康ニーズへの対応など、行政や医療機関、住民と連携して積極的に取り組んだ。また、大学イベントや図書館の開放による住民との交流、海外大学との国際交流を実施した。

なお、自己評価については、中期計画に掲げた事項を全て達成できたことに加え、数値目標の実績が目標値を大きく超えたこと、特に直近3年間では、行事の開催回数や参加者数の実績が、目標の10倍程度に達したことから、「S」とした。

②重点的な取組及び特筆すべき取組

- ・平成23年度から3年間、認定看護師教育課程「感染管理」を開講し、より高度で専門的な看護職者を育成した。
- ・平成23年度に三重県と災害対策相互協力協定を締結し、大規模災害発生時の本学の支援・役割を明確にした。
- ・平成24年度に、本学開学15周年事業の一環として、「三重の看護史—昭和から平成への軌跡—」を発行するとともに国公立大学初の「看護博物館」を開設し、三重の看護の充実・発展に寄与した。
- ・臨床能力に優れた質の高い看護職者の教育・育成について連携協力を図るため、県内の医療機関（7箇所）と連携協力協定を締結した。
- ・平成26年度から、県内のニーズに応え、看護の質向上に資するため、認知症ケア看護師研修を開催し、定員を大幅に超える146名が受講した。
- ・国際交流協定を締結している海外の大学と学生の短期研修や教員の招聘などを通じて国際交流を推進した。

◎大項目の主な内容

(1) 注目される主な取組

☆(H25実績評価における特筆項目)は、別途【参考資料】有り
 ※【参考資料】に中間総括以降(H25、26)の取組を記載

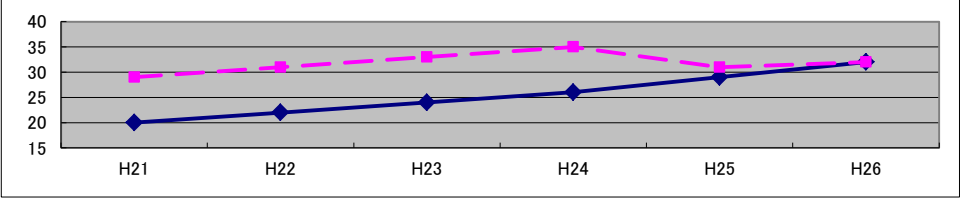
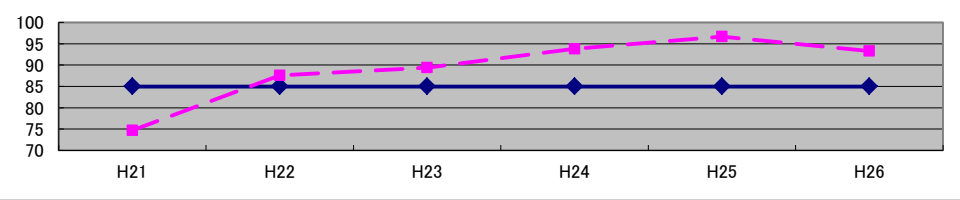
原則、太囲み線内の、黄色着色部分(中間総括以降の視点)に、各委員のコメントを簡潔にご記入ください。
 黄色着色部分以外(中間総括の視点)については、中間総括と異なった意見や、追記したいこと等あればご記

評価の視点	〈視点の内訳〉 ●中間総括(H21～H24) ◎H25年度評価結果 ◇H26年度実績報告	番号	関連する中期目標・中期計画	関連する中期計画の実施状況		期間評価にかかる評価委員コメント 注目
				中期計画の実施状況(H21～H26)	達成年度	
※(教育・①) 足と質の向上(再掲※) ① 県内感染管理認定看護師の育成	●平成23年度に「認定看護師教育課程『感染管理』」を開設し、また、成人看護学領域の専門看護師コース開設に向けて取り組むなど、総合的な能力を有する看護専門職者を育成している。 <21108関連>	21108	＜総合的調整能力を有する看護専門職者の育成＞ 多様化・複雑化・高度化する看護ニーズに的確に 대응していくため、看護の実践現場における総合的な調整能力を有する看護専門職者を育成する。	看護の専門職者を育成するため、県内のニーズ調査を踏まえ、平成23年度から認定看護師教育課程『感染管理』を開講し、3年間で90名の修了生を送り出した。	23	再掲のため記載不要
※(研究・④) 三重の看護史(再掲※)	●地域交流センター事業として、平成24年度に『三重の看護史』を編さん、発行した。これは附属看護博物館の創設とあわせ、三重県の看護事業及び日本の地域看護事業の将来の発展にとって大きな示唆を与えるものとなった。 <22206関連> (※)「附属看護博物館」については(教育-⑤)にも記載	22206	＜学内外との共同研究の推進＞ 学内共同研究や産官学連携研究等の学外との共同研究を強化・促進するため、研究活動のコーディネートや事務手続きを支援する体制を整備する。	教員個々の研究テーマやこれまでの代表的な研究業績を本学ホームページに掲載し、学内外への周知を図るとともに、平成26年度に受託研究規程を整備した。また、地域交流センターに専任職員を配置し、関係機関との調整や事務手続きなどのコーディネート機能を充実させた。	21	再掲のため記載不要

<p>③ 〓地域との連携（行政、医療機関等、地域住民等）</p>	<p>《行政》 ●大規模自然災害への対応について相互に協力を図るため、設立団体である三重県との間で「災害対策相互協力協定」を締結した。 <23103関連></p> <p>【改善等を期待する点】 災害時の地域における大学の機能を具体的かつ明確にし、協定内容に基づく体制整備等の更なる検討を期待する。</p>	<p>23103 ☆</p> <p>＜行政との連携＞ 県や市町との情報交換や連携を進め、教員がそれぞれの専門分野を活かして、地域の保健・医療・福祉の課題解決や政策立案に積極的に協力する。</p>	<p>県からの受託事業の実施や災害対策相互協力協定の締結、各種委員会・審議会への委員就任などを通じて、県や市町の課題解決や政策立案に積極的に参画した。</p>	<p>21</p> <p>□注目される主な取組</p> <p>□改善等を期待する点</p>
	<p>《医療機関等》 ●優れた専門看護師の教育・育成に向けて、県立こころの医療センターと連携・協力の協定を締結した。また、看護研究力向上支援事業を展開し、県内医療機関等関係団体との連携を進め、看護職者支援のさまざまな取組を行った。 <23104関連></p> <p>《地域住民等》 ●大学行事や地域交流センター事業について、各種媒体を用いて効果的な広報を行い、地域住民等との積極的な交流を図った。このような交流事業は全体として非常に活発に行われており、特に公開講座等大学主催の行事の開催回数、参加者数は法人化以降順調に推移し、平成24年度においては過去最高を記録した。また、附属図書館の学外利用者も増加しており、学生・院生・教職員のみならず、県内看護職者、他学の教員や学生、県民の利便性を高めたことは注目される。 <23108関連></p>	<p>23104 ☆</p> <p>＜地域の医療機関や福祉施設等との連携＞ 県内の医療機関や福祉施設、関係団体等と連携し、看護職者の離職防止や生涯教育支援等の活動を積極的に行う。また、より専門性の高い看護専門職者の育成や研修・研究支援を行う。</p>	<p>看護職者の看護研究能力向上のため、「看護研究の基本ステップ」やその上級編の「看護研究アドバンスコース」などを開設し、県内医療機関のニーズに対応した。また、平成23年度から3年間は認定看護師教育課程「感染管理」を開講し、より高度で専門的な看護職者を育成した。さらに、平成24年度から県内の七つの医療機関と連携協力協定を順次締結し、人事交流や共同研究などを行った。</p>	<p>21</p> <p>□その他</p>
	<p>23108 ☆</p> <p>＜地域住民等との交流の推進＞ 学園祭やオープンキャンパス等の行事や図書館等の開放により、地域の人々との交流の機会を積極的に設ける。</p>	<p>地域交流センターが主催する公開講座に加えて、学園祭やオープンキャンパス、ゆびた祭等の開催や図書館の開放などを通じて、地域住民との交流を積極的に進めた。</p>	<p>21</p>	

④ へ国際交流及び国際化に伴う活動の推進 ▽	◎グラスゴー大学との交流を検討するなど、国際交流への努力を評価する。今後より一層、国際交流の推進を図るため、P-D-C-AサイクルのCに更に一層注意を払い、学生の研修者数の増加や、教員の学術交流を積極的に行っていただきたい。 <23201関連>	23201 ☆	<国際交流協定大学との交流の推進> 国際交流協定を締結している大学での実習の実施など、一層の交流充実を図るとともに、外国人短期研修生の受入れについての体制を整え、活発な交流を推進する。	国際交流協定を締結しているマヒドン大学（タイ国）とは、毎年継続的に学生の相互短期研修を実施するとともに、隔年で教員も招聘し、本学の教員との学術交流を深めた。また、カリフォルニア大学ロサンゼルス校（米国）とも学生の派遣や教員の招聘を通じて交流を深めた。	21	<input type="checkbox"/> 注目される主な取組 <input type="checkbox"/> 改善等を期待する点 <input type="checkbox"/> その他
	◎外国人の健康増進事業を学生ボランティアの参加によって実施し、それをカリキュラムに反映させたことを評価する。 <23203関連>	23203 ☆	<国際化に伴う諸問題解決のための活動の実施> 在日外国人への支援等に関する研究の実施や、国際看護学領域の教育の充実、国際看護に対応できる外国語教育の実施等を通じて、社会の国際化に伴う課題解決への貢献といっそうの国際交流を推進する。	国際交流委員会が中心となり、地域交流センター事業「外国人の健康増進事業」において、県内外国人を対象に身体測定等を実施した。また、当該事業には学生もボランティアで参加して異文化コミュニケーションや外国人との交流を体験し、教育に役立てることができた。さらに、事業を通じて得られた在日外国人の健康支援の現状などを「国際看護活動論」などに反映させた。	21	

(2) 数値目標に関連する主な取組

評価の視点	中間総括 (H21~H24) ※H26.1月報告	関連する数値目標と取組結果 (H21~H26)	期間評価にかかる評価委員コメント																					
⑤ へ地域連携事業の実施件数 ▽	<p>【進捗が顕著な項目】</p> <p>●地域交流センターによる事業実施数であるが、年々着実に増加しており、全て目標を達成している。</p>	<p><数値目標> 地域連携事業の実施件数（地域交流センターによる事業実施数）を前年度比10%増加させる。（基準値：17.5件）</p> <p><取組結果> 6年連続目標実施件数を達成することができた。</p> <p style="text-align: right;">(実線:目標値、破線:実績値)</p>  <table border="1"> <caption>地域連携事業の実施件数 (H21~H26)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H21</td> <td>20</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>H22</td> <td>22</td> <td>31</td> </tr> <tr> <td>H23</td> <td>24</td> <td>32</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>26</td> <td>34</td> </tr> <tr> <td>H25</td> <td>28</td> <td>31</td> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>32</td> <td>32</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標値	実績値	H21	20	30	H22	22	31	H23	24	32	H24	26	34	H25	28	31	H26	32	32	<p><input type="checkbox"/>注目される主な取組</p> <p><input type="checkbox"/>改善等を期待する点</p> <p><input type="checkbox"/>その他</p>
年度	目標値	実績値																						
H21	20	30																						
H22	22	31																						
H23	24	32																						
H24	26	34																						
H25	28	31																						
H26	32	32																						
⑥ へ公開講座の参加者の満足度 ▽	<p>【進捗が顕著な項目】</p> <p>●参加者アンケートにより満足度調査を実施した結果であるが、平成21年度は目標を下回ったものの、以降は順調に推移し、目標を達成している。</p>	<p><数値目標> 公開講座の参加者の満足度（参加者アンケートによる満足度）を85%以上とする。</p> <p><取組結果> 平成21年度を除き目標値を上回った。</p> <p style="text-align: right;">(実線:目標値、破線:実績値)</p>  <table border="1"> <caption>公開講座の参加者の満足度 (H21~H26)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H21</td> <td>85</td> <td>75</td> </tr> <tr> <td>H22</td> <td>85</td> <td>88</td> </tr> <tr> <td>H23</td> <td>85</td> <td>90</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>85</td> <td>93</td> </tr> <tr> <td>H25</td> <td>85</td> <td>95</td> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>85</td> <td>93</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標値	実績値	H21	85	75	H22	85	88	H23	85	90	H24	85	93	H25	85	95	H26	85	93	<p><input type="checkbox"/>注目される主な取組</p> <p><input type="checkbox"/>改善等を期待する点</p> <p><input type="checkbox"/>その他</p>
年度	目標値	実績値																						
H21	85	75																						
H22	85	88																						
H23	85	90																						
H24	85	93																						
H25	85	95																						
H26	85	93																						

⑦へ公開講座等大学主催の行事の開催回数・参加者数

【進捗が顕著な項目】

●いずれも法人化当初から目標を大きく上回っている。特に平成24年度は開催回数47回、参加者数3,689人と過去最高を記録した。

<数値目標>

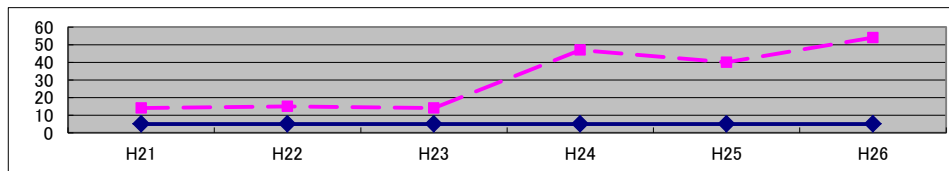
- (1) 公開講座等大学主催の行事の開催回数を5回以上とする。
- (2) 公開講座等大学主催の行事の参加者数を対前年度比10%増加させる。(基準値: 182人)

<取組結果>

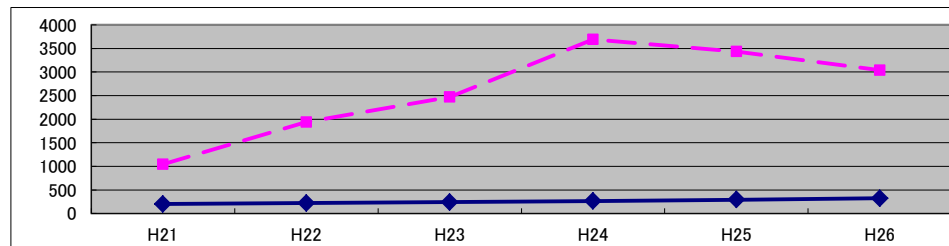
- (1) 公開講座等大学主催の行事の開催回数について、6年連続目標を大きく上回り、平成26年度には過去最高の54回を記録した。(表1)
- (2) 公開講座等大学主催の行事の参加者数について、6年連続目標を大きく上回った。(表2)

(表1) 公開講座の等大学主催の行事の開催回数(回)

(実線: 目標値、破線: 実績値)



(表2) 公開講座等大学主催の行事の開催回数(回)



注目される主な取組

改善等を期待する点

その他

II 業務運営の改善及び効率化に関する項目

◎大項目総括

各委員の評価(S・A・B・C・Dの5段階)を記入してください。

法人の自己評価	評価結果	年度評価結果					
		2 1	2 2	2 3	2 4	2 5	2 6
A		B	A	A	A	A	

法人による総括

①自己評価の根拠

役員体制を構築し、理事長のリーダーシップのもと迅速な意思決定や機動的な組織運営を行うとともに、事務局の企画機能を強化した。また、業務運営の改善及び効率化に取り組み、戦略的な経営資源や予算の配分を行った。さらに、教員や事務職員の育成に積極的に取り組んだ。

なお、自己評価については、中期計画に掲げた事項を全て達成できたことから、「A」とした。

②重点的な取組及び特筆すべき取組

- ・事務局企画広報課職員の増員や企画員の設置など、企画広報部門の事務体制を強化し、情報発信の強化、学長特命事項を遂行した。
- ・教員、事務職員が一体的に大学運営を行うため、FD研修、SD研修に相互参加し、個々の業務の理解を深め、協働して業務に取り組む体制を構築した。
- ・教員活動評価・支援制度や事務局職員育成支援のための評価制度などを適切に運用し、教員、事務職員の育成に注力した。

◎大項目の主な内容

(1) 注目される主な取組

☆(H25実績評価における特筆項目)は、別途【参考資料】有り
 ※【参考資料】に中間総括以降(H25、26)の取組を記載

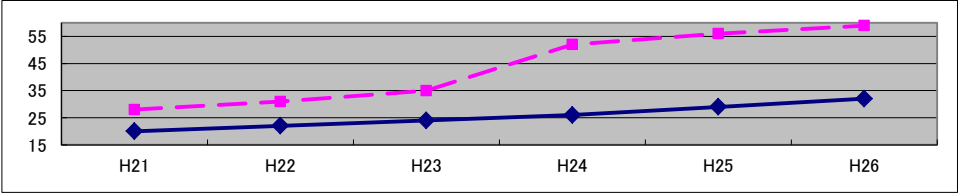
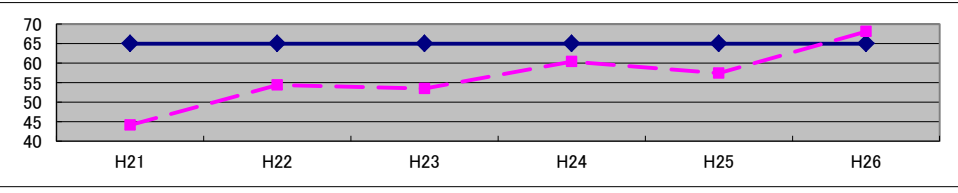
原則、太囲み線内の、黄色着色部分(中間総括以降の視点)に、各委員のコメントを簡潔にご記入ください。
 黄色着色部分以外(中間総括の視点)については、中間総括と異なった意見や、追記したいこと等あればご記入ください。

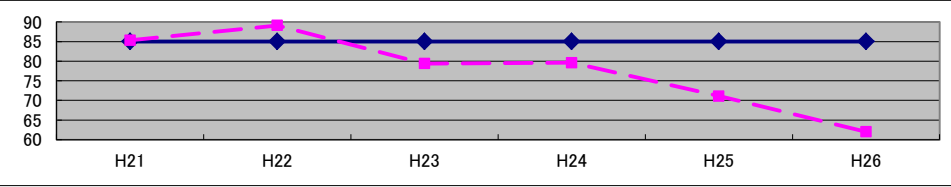
評価の視点	〈視点の内訳〉 ●中間総括(H21~H24) ◎H25年度評価結果 ◇H26年度実績報告	番号	関連する中期目標・中期計画	関連する中期計画の実施状況		期間評価にかかる評価委員コメント
				中期計画の実施状況(H21~H26)	達成年度	
① 戦略的な法人運営を行うための企画 機能の強化や情報の収集・発信	●事務局企画広報課職員の増員により、企画広報についての事務体制を強化した。 <31201関連> ●学生・院生、保護者、同窓生、就職先等の意見・ニーズを調査・把握し、これらに対応する政策を立案・実施し、政策を広報・発信している。特にモバイル版ホームページの内容充実とそれによる迅速な情報発信は非常に注目される。 <31203、31204関連>	31201 ☆	<企画機能の強化> 戦略的な法人運営を行うため、事務局の企画機能を強化する。	大学PRや学生募集活動、大学の地域交流・地域貢献事業を充実させるため、事務局企画広報課を増員して事務体制の強化を図った。また、平成25年度には、新たに企画員の職を設置し、法人運営における重要課題や学長の特命事項等にかかる調整などを行った。	21	□注目される主な取組 □改善等を期待する点 □その他
		31203 ☆	<戦略策定のためのデータの収集と反映> 看護大学に対するニーズや本学が置かれている状況を把握し、年度計画や次期中期計画の策定に反映させる。	小規模単科大学としてのメリットを生かして、様々な方法により学生、保護者、同窓生、就職先等の意見やアンケートによるニーズを把握するとともに、きめ細かな対応を心掛け戦略的な法人運営を行ってきた。また、把握した意見やニーズを参考に、年度計画や第二期中期計画の策定を行った。	21	
		31204 ☆	<戦略的な情報発信の実施> 大学の競争力を高めるため、大学の情報を戦略的に発信する。	大学の競争力を高めるため、ホームページをはじめ、広報誌、マスコミ等を活用し積極的な情報発信に努めた。また、スマートフォンの普及に伴い、スマートフォンを活用した情報発信を行うなど、より効果が高いと思われる広報媒体を積極的に活用した。	21	

<p>② へ 教員と事務職員等による 一体的な運営体制の整備 へ</p>	<p>●教員、職員が相互にFD研修やSD研修に参加し、大学として協同して業務に取り組む体制を構築している。 <31202関連></p>	<p>31202 ☆</p>	<p><教員と事務職員等による一体的な運営体制の整備> 大学職員としての倫理観を常に持ちながら、教員と事務職員がそれぞれの専門性を生かし、相互に協力し、一体となって教育・研究の充実、地域貢献の推進、大学運営の効率化に取り組むため、その意識の浸透と体制の整備を図る。</p>	<p>教員、事務職員が相互にFD研修やSD研修に参加することで、個々の業務に関する理解が深まり、業務を円滑かつ安定して遂行することができ、協働して業務に取り組む体制が構築できた。</p>	<p>21</p> <p><input type="checkbox"/>注目される主な取組</p> <p><input type="checkbox"/>改善等を期待する点</p> <p><input type="checkbox"/>その他</p>
<p>③ へ 優秀な教員の継続的な確保 へ</p>	<p>●優秀な教員を確保するため、特任教員制度、客員教授及び臨床教授の採用など、新たな制度を創設した。また、教員採用情報や教育研究に関する情報を積極的に発信している。 <33201関連></p>	<p>33201 ☆</p>	<p><優秀な教員の継続的な確保> 優秀な教員を確保するため、教員採用に関する情報や大学の教員研究活動の状況を、適切で効果的な手法や媒体により発信する。</p>	<p>優秀な教員の確保のために、教員採用に関する情報や、教育研究活動の状況を大学ホームページ、研究者人材データベース等を活用して、積極的に発信した。</p>	<p>21</p> <p><input type="checkbox"/>注目される主な取組</p> <p><input type="checkbox"/>改善等を期待する点</p> <p><input type="checkbox"/>その他</p>

<p>④ へ法人固有職員の採用 へ</p>	<p>●専門的な知識を蓄積するためにも、プロパー職員の採用に着手したことは評価される。法人運営上、計画的な採用の推進が望まれる。 <33203関連></p>	<p>33203</p>	<p><法人の固有職員の採用> 事務職員については、当面、三重県からの派遣を基本とするが、法人運営及び大学事務に精通した高い専門性を持つ人材の確保が必要であることから、法人の固有職員の計画的な採用を行う。</p>	<p>法人固有職員の採用を行うため「三重県立看護大学事務職員選考規程」を整備するとともに、職員就業規則などの関係規程等の所要の改正を進めた。その結果、平成25年度に法人固有職員を初めて採用し、その採用効果を検証しながら、計画的に採用を進めることとし、平成27年度から2名を新たに採用した。</p>	<p>25</p> <p><input type="checkbox"/>注目される主な取組</p> <p><input type="checkbox"/>改善等を期待する点</p> <p><input type="checkbox"/>その他</p>
<p>⑤ へ適正で透明性の高い業務の運営 へ</p>	<p>●適正で透明性の高い業務の運営を図るため、今後も引き続きコンプライアンスを徹底し、内部監査を体系的、計画的に実施するなど、県立大学として県民の信頼確保に努め、説明責任を果たせるよう努力していくことが望まれる。 <31301関連></p>	<p>31301</p>	<p><内部監査機能の充実> 業務の適正な実施や透明性、効率性を確保するため、誤謬や不正を防止する内部牽制の仕組みを導入する。</p>	<p>内部監査機能を充実させるため、内部監査実施要項を整備し、計画的に監査を行った。また、会計処理に関する監査に加え、業務運営についても監査を実施し、業務改善等に活かした。</p>	<p>21</p> <p><input type="checkbox"/>注目される主な取組</p> <p><input type="checkbox"/>改善等を期待する点</p> <p><input type="checkbox"/>その他</p>

(2) 数値目標に関連する主な取組

評価の視点	中間総括 (H21~H24) ※H26.1月報告	関連する数値目標と取組結果 (H21~H26)	期間評価にかかる評価委員コメント														
<p>⑥ ↑報道発信件数 ↓</p>	<p>【進捗が顕著な項目】</p> <p>●大学のパブリシティ 活動の結果としての行事等の報道発信件数であり、法人化以降全て目標を達成しており、年々実績値が増加している。特に平成24年度においては、52件と前年度の35件を大きく上回った。</p>	<p>＜数値目標＞ 報道発信件数（看護大学に関する情報提供件数）を前年度比10%増加させる。（基準値：17.4件）</p> <p>＜取組結果＞ 6年連続目標件数を達成することができた。</p> <p style="text-align: right;">(実線:目標値、破線:実績値)</p>  <table border="1"> <caption>報道発信件数 (実績値)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H21</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>H22</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>H23</td> <td>35</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>52</td> </tr> <tr> <td>H25</td> <td>55</td> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>58</td> </tr> </tbody> </table>	年度	実績値	H21	25	H22	30	H23	35	H24	52	H25	55	H26	58	<p><input type="checkbox"/>注目される主な取組</p> <p><input type="checkbox"/>改善等を期待する点</p> <p><input type="checkbox"/>その他</p>
年度	実績値																
H21	25																
H22	30																
H23	35																
H24	52																
H25	55																
H26	58																
<p>⑦ ↑職員アンケートによる職員の満足度 ↓</p>	<p>【進捗が遅れている項目】</p> <p>●事務局職員を対象に実施した職員アンケート調査結果であり、業務、勤務条件、職場環境等についての満足度である。年々改善されつつあるものの、4年連続で目標を下回っている。特に満足度の低くなっている休暇の取得や総勤務時間の現状については、その分析を踏まえ、引き続き改善に取り組む必要がある。</p>	<p>＜数値目標＞ 職員アンケートにおける職員の満足度（職員アンケートによる業務、勤務条件職場環境等に対する満足度）を65%以上とする。</p> <p>＜取組結果＞ 平成21年度から5年連続目標値を達成できなかったが、平成26年度に初めて目標値を上回った。</p> <p style="text-align: right;">(実線:目標値、破線:実績値)</p>  <table border="1"> <caption>職員アンケートによる職員の満足度 (実績値)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H21</td> <td>45</td> </tr> <tr> <td>H22</td> <td>55</td> </tr> <tr> <td>H23</td> <td>53</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>H25</td> <td>58</td> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>68</td> </tr> </tbody> </table>	年度	実績値	H21	45	H22	55	H23	53	H24	60	H25	58	H26	68	<p><input type="checkbox"/>注目される主な取組</p> <p><input type="checkbox"/>改善等を期待する点</p> <p><input type="checkbox"/>その他</p>
年度	実績値																
H21	45																
H22	55																
H23	53																
H24	60																
H25	58																
H26	68																

⑧ へ事務局の対応についての学生満足度	<p>【進捗が遅れている項目】</p> <p>●学生アンケート調査の結果であるが、目標85%に対し、平成23年度は79.4%、平成24年度は79.6%と目標を達成できなかった。引き続き原因分析を行い、満足度を高める取り組みを継続的に実施することが必要である。</p>	<p><数値目標> 事務局の対応についての学生満足度（学生アンケートによる事務局の対応についての満足度）を85%以上とする。</p> <p><取組結果> 平成21年度、22年度を除き目標値を達成することができず、平成26年度は62.0%と最も低い値となった。</p> <p style="text-align: center;">（実線：目標値、破線：実績値）</p>  <table border="1" style="display: none;"> <caption>学生満足度推移表</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値 (%)</th> <th>実績値 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H21</td> <td>85</td> <td>85</td> </tr> <tr> <td>H22</td> <td>85</td> <td>88</td> </tr> <tr> <td>H23</td> <td>85</td> <td>80</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>85</td> <td>80</td> </tr> <tr> <td>H25</td> <td>85</td> <td>70</td> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>85</td> <td>62</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標値 (%)	実績値 (%)	H21	85	85	H22	85	88	H23	85	80	H24	85	80	H25	85	70	H26	85	62	<p><input type="checkbox"/>注目される主な取組</p> <p><input type="checkbox"/>改善等を期待する点</p> <p><input type="checkbox"/>その他</p>
年度	目標値 (%)	実績値 (%)																						
H21	85	85																						
H22	85	88																						
H23	85	80																						
H24	85	80																						
H25	85	70																						
H26	85	62																						

Ⅲ 財務内容の改善に関する項目

◎大項目総括

各委員の評価(S・A・B・C・Dの5段階)を記入してください。

法人の自己評価	評価結果	年度評価結果					
		2 1	2 2	2 3	2 4	2 5	2 6
A		B	A	A	A	A	

法人による総括

①自己評価の根拠

授業料等の料金については、他の国公立大学の改定状況などを参考に適切な料金を設定した。また、教育・研究に支障のない範囲で、本学施設を有料で貸し付け、自己収入の確保に努めた。さらに、外部研究資金の獲得や有料講座の開催により収入確保を図るとともに、業務の合理化、簡素化により経費の抑制に努めた。

なお、自己評価は、中期計画に掲げた事項を全て達成できたことから、「A」とした。

②重点的な取組及び特筆すべき取組

- ・外部研究資金については、全教員が応募申請することを目標に取り組み、平成24年度、25年度は100%を達成した。
- ・教育・研究に支障のない範囲で、本学施設の貸し出しを行い、毎年、一定の収入を得ることが出来た。
- ・文部科学省の補助事業の活用や認定看護師教育課程「感染管理」の開講、志願者の増加に伴う受験料収入の増等、自己収入の確保に努めた。

◎大項目の主な内容

(1) 注目される主な取組

★(H25実績評価における特筆項目)は、別途【参考資料】有り
 ※【参考資料】に中間総括以降(H25、26)の取組を記載

原則、太囲み線内の、黄色着色部分(中間総括以降の視点)に、各委員のコメントを簡潔にご記入ください。
 黄色着色部分以外(中間総括の視点)については、中間総括と異なった意見や、追記したいこと等あればご記入ください。

評価の視点	〈視点の内訳〉 ●中間総括(H21～H24) ◎H25年度評価結果 ◇H26年度実績報告	番号	関連する中期目標・中期計画	関連する中期計画の実施状況		期間評価にかかる評価委員コメント
				中期計画の実施状況(H21～H26)	達成年度	
① ↑外部研究資金獲得の促進 ↓	●研究費公募の情報周知や説明会を実施し、平成24年度においては、外部研究資金申請率100%の目標を達成したことは高く評価できる。 <41201関連>	41201	<外部研究資金獲得の促進> 科学研究費補助金などの競争的資金獲得のため、公募情報の収集・提供や申請書類作成などの申請支援体制等強化し、全教員が科学研究費等外部資金に対して申請を行うとともに、「大学教育改革支援のためのプログラム」等の資金申請に係る学内体制を整備することにより、全学的に外部資金獲得額の増加に努める。	外部研究資金による研究公募の最新情報や更新情報をメールや学内ホームページにより周知を図るとともに、学内説明会の開催や申請時のサポート等を行う「科学研究費補助金等支援システム」を運用し、教員への支援を行った。	21	<input type="checkbox"/> 注目される主な取組 <input type="checkbox"/> 改善等を期待する点 <input type="checkbox"/> その他
② ↑環境への配慮 ↓	●業務の合理化、簡素化等により経費の抑制を図るとともに、ISO14001環境マネジメントシステムを適正に運用して環境保全活動の更なる向上を図り、ISO活動への学生の積極的な参加を進める取組を行っている。 <42102関連>	42102	<環境への配慮> 環境方針(ISO14001)に沿った省エネ対策を講じ、経費の抑制や管理運営の合理化・効率化を進める。	ISO14001の環境マネジメントシステムを適正に運用し、定期的に外部機関による更新審査を受審した。また、環境マネジメントシステムの運用を通して、学生自治会が主体の『ペットボトルキャップ回収活動』につながり、世界の子どもたちにワクチンを寄付する活動が継続された。	21	<input type="checkbox"/> 注目される主な取組 <input type="checkbox"/> 改善等を期待する点 <input type="checkbox"/> その他

<p>③ へ有料の公開講座等の開催 ↓</p>	<p>◎看護職者のための有料公開講座の整理は合理的で適切な方針変更である。有料公開講座の質的充実、収入増加の努力を続けていきたい。 <41301関連></p>	<p>41301 ☆</p>	<p><有料の公開講座等の開催> 有料の公開講座、研修セミナー等を積極的に開催する。</p>	<p>「初学者のための看護研究」等有料の公開講座を開設し、6年間合計で、約630万円の収入を得た。</p>	<p>21</p> <p><input type="checkbox"/>注目される主な取組</p> <p><input type="checkbox"/>改善等を期待する点</p> <p><input type="checkbox"/>その他</p>
<p>④ へ資産の運用管理 ↓</p>	<p>◎資産の運用管理への努力が認められる。施設・設備の保守・点検を実施するとともに、省エネ対策・防災対策を進め、また、使いやすい施設・設備への改修を行ったことを評価する。 <43101、43103関連></p>	<p>43101 ☆</p>	<p><固定資産の適正な維持管理> 土地・施設・設備等の固定資産は定期的な点検を行って機能や安全性の確保と環境への影響に配慮するとともに、利用者の利便の向上、有効活用に努める。</p>	<p>定期的な施設・設備等の点検を行い、適切な維持管理に努めるとともに、職員や学生の意見などを参考に、トイレの増築や講義室の改修などを行った。また、省エネ対策、防災対策等の観点から、照明器具のLED化や窓ガラスの飛散防止対策、学内の防犯カメラシステムの更新などに取り組んだ。</p>	<p>21</p> <p><input type="checkbox"/>注目される主な取組</p> <p><input type="checkbox"/>改善等を期待する点</p>
		<p>43103 ☆</p>	<p><ユニバーサルデザインに配慮した施設の運営> 施設・設備の管理運営にあたっては、ユニバーサルデザインの考え方に基づいて、車椅子駐車場の確保や十分なスペースの設定など誰にでも利用しやすい施設としての運営に配慮する。</p>	<p>誰もが使い易い大学施設・設備とするため、段差の解消や手すりの補修、車いすでの移動を容易にするためのスロープの設置等を行った。また、3区画を「三重県思いやり駐車場」として登録した。</p>	<p>23</p> <p><input type="checkbox"/>その他</p>

IV 自己点検・評価の実施に関する項目

◎大項目総括

各委員の評価(S・A・B・C・Dの5段階)を記入してください。

法人の自己評価	評価結果	年度評価結果					
		2 1	2 2	2 3	2 4	2 5	2 6
A		A	A	A	A	A	

法人による総括

①自己評価の根拠

年度計画の進行管理について、各委員会が年度計画管理表に基づき点検・評価する仕組みを構築するとともに、自己点検評価委員会を設置して、大学全体の自己点検・評価を実施した。また、三重県公立大学法人評価委員会の評価結果を全教職員で共有し、目標達成に向け、改革・改善に取り組んだ。さらに、平成25年度には（公財）大学基準協会の認証評価を受審し、大学基準に「適合」していると認定された。

なお、自己評価については、中期計画に掲げた事項を全て達成できたことから、「A」とした。

②重点的な取組及び特筆すべき取組

・年度計画管理表により、各委員会が点検・評価を行うことで、全学的な取り組みができた。

V 情報公開等の推進に関する項目

◎大項目総括

各委員の評価(S・A・B・C・Dの5段階)を記入してください。

法人の自己評価	評価結果	年度評価結果					
		2 1	2 2	2 3	2 4	2 5	2 6
A		A	A	A	A	A	

法人による総括

①自己評価の根拠

大学の情報発信については、ホームページを活用して評価結果や財務諸表などを速やかに公開した。また、大学の機関紙や新聞、ラジオ等のマスメディアを活用して積極的に情報発信を行った。また、情報公開については、三重県の制度に準じて取り扱い、県民からの公開請求に適切に対応した。

なお、自己評価については、中期計画に掲げた事項を全て達成できたことから、「A」とした。

②重点的な取組及び特筆すべき取組

- ・ホームページについては、より利用しやすく、かつ見やすくなるようリニューアルを行うとともに、スマートフォンへの対応を行った。
- ・マスメディアを活用した情報発信に積極的に取り組み、6年間全ての年度で報道資料提供の件数が目標を達成した。

◎大項目の主な内容

(1) 注目される主な取組

☆(H25実績評価における特筆項目)は、別途【参考資料】有り
 ※【参考資料】に中間総括以降(H25、26)の取組を記載

原則、太囲み線内の、黄色着色部分(中間総括以降の視点)に、各委員のコメントを簡潔にご記入ください。

評価の視点	〈視点の内訳〉 ●中間総括(H21~H24) ◎H25年度評価結果 ◇H26年度実績報告	番号	関連する中期目標・中期計画	関連する中期計画の実施状況		期間評価にかかる評価委員コメント
				中期計画の実施状況(H21~H26)	達成年度	
① へ 教育・ 研究に 関する 情報の 公開 ▽	◎教育・研究をはじめ大学の多面的な活動について、ホームページ掲載以外に、「三重県立看護大学紀要」、「大学案内」、「MCNレポート」、「地域交流センター年報」等の大学作成の媒体により公表するとともに、メディア関係が189件に達するなど、積極的に発信活動を展開していることを、非常に高く評価する。 <61103関連>	61103 ☆	<教育・研究に関する情報の公開> 大学の運営について、県民や関係機関等から適切な評価と理解を得るため、教育・研究活動の内容を多様な媒体に機会を捉えて積極的に公表する。	教育情報の公表が23年4月から義務化されたことから、法令に合致するようホームページの公表内容を見直すとともに、年2回全教員に内容確認を行い情報の更新を行った。また、ホームページ以外にも、大学が作成する「三重県立看護大学紀要」、「大学案内」などの広報媒体への掲載や、新聞、ラジオ等のマスメディアを通じた情報発信を行った。	21	<input type="checkbox"/> 注目される主な取組 <input type="checkbox"/> 改善等を期待する点 <input type="checkbox"/> その他

Ⅵ その他業務運営に関する重要項目

◎大項目総括

法人の自己評価	評価結果	年度評価結果					
		2 1	2 2	2 3	2 4	2 5	2 6
A		A	A	A	A	A	

各委員の評価(S・A・B・C・Dの5段階)を記入してください。

法人による総括

①自己評価の根拠

学生及び教職員の危機管理意識の向上を図るため、防犯をはじめとした各種講習会を開催するとともに、訓練などを実施した。また、人権保護やハラスメント防止等の研修やハラスメント相談窓口等の体制を構築した。

なお、自己評価については、中期計画に掲げた事項を全て達成できたことから、「A」とした。

②重点的な取組及び特筆すべき取組

- ・大規模災害発生時に学生及び教職員等の安否を確認するシステムを平成24年度から導入し、防災訓練などで活用した。
- ・駐輪場・駐車場の照明設備の増設や防犯カメラのシステムの更新など学生の安全確保対策に注力した。

◎大項目の主な内容

(1) 注目される主な取組

★(H25実績評価における特筆項目)は、別途【参考資料】有り
 ※【参考資料】に中間総括以降(H25、26)の取組を記載

太囲み線内の、黄色着色部分以外(中間総括の視点)に、中間総括と異なった意見や、追記したいこと等あればご記入ください。

評価の視点	<視点の内訳> ●中間総括(H21~H24) ◎H25年度評価結果 ◇H26年度実績報告	番号	関連する中期目標・中期計画	関連する中期計画の実施状況		
				中期計画の実施状況(H21~H26)	達成年度	期間評価にかかる評価委員コメント
① ↑危機管理体制の整備 ↓	●学生及び教職員の安全確保のために訓練や研修を行うとともに、設備の充実を図っている。なお、大規模災害等非常時に使用する機器の整備にも、引き続き留意されたい。 <71101、71102、71103関連>	71101	<事故・災害・犯罪の未然防止> 施設の安全確保や学生及び職員に対する啓発や訓練等の防災・防犯の取組を実施する。	学生を対象に、防犯をはじめ薬物乱用防止、消費生活、交通安全等の講習会を開催した。また、大規模地震発生を想定した訓練を実施するとともに、大規模災害発生時に学生、教職員等の安否を確認するシステムを平成24年度から導入した。さらに、駐輪場への照明設備の増設や防犯カメラシステムの更新など学生の安全確保対策に取り組んだ。	21	<input type="checkbox"/> 注目される主な取組 <input type="checkbox"/> 改善等を期待する点 <input type="checkbox"/> その他
		71102	<危機管理体制の整備> 事故・災害及び大学の業務運営に影響を及ぼす危機発生時における対応の体制や手順を検討し、整備する。		21	
		71103	<危機管理意識の向上> 学生や関係者、職員の安全・安心の確保、並びに大学の信用を失墜させるような事態の予防のため、研修等を通じて職員の危機管理意識の向上を図る。		21	